

令和3年度
第2期上里町まち・ひと・しごと
創生総合戦略
評価シート

基本目標 1 町の資源を活かして、仕事をつくり、産業を盛んにする

| 項番 | 具体的施策 | 担当課 関係課 | 担当課による自己評価と今後の方針 | | | | KPI【重要業績評価指標】 | | | | | 上里町まち・ひと・しごと創生本部 | | 上里町地方創生推進審議会 | | 備考 【KPIの補足など】 | | |
|--|------------------|------------------------------|------------------|--|---|--------|---|--------------------------|-----------|-----------|-------------|----------------------------|-------|--|--------|--|----------|--|
| | | | 具体的な取組の内容 | 施策の進捗等 | 自己 評価 | 今後の考え方 | KPI | 最終目標 (R6) | R3 目標値 | R3 実績値 | 達成度 | 本部評 価 | 本部の意見 | 取組方 針 | 審議会の意見 | | 取組 方針 | |
| 基本的な方向 (1) 民間企業の誘致・活性化による雇用の創出 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | ①民間企業の誘致の推進 | ア. 上里サービシアリア周辺地区及び児玉工業団地の活性化 | 産業振興課・道路整備課 | 《産業振興課》 新たな企業が進出しやすい環境と既存工場がより効率的な土地利用を図れるよう、工場立地法地域準則条例を制定（令和3年1月）を行った。工場立地等について各事業者からの相談を受け調整を行うとともに、埼玉県企業立地課との情報共有などにより地域の進出意向の把握に努めた。SA周辺産業団地については3事業者との協同によるイベント等を企画していたが、感染拡大の影響により中止となった。 《道路整備課》 児玉工業団地線の用地買収を行い、工事に着手した。神流リバーサイドロードについては、詳細設計の発注を行い、工事に着手した。 | 《産業振興課》 令和元年度に引き続き、令和3年度にも企業誘致条例に基づく奨励金制度の充実を行ったことに加え、令和2年度には工場立地法地域準則条例の制定するなど、工場立地に向けた制度の整備が図られている。埼玉県企業立地課との情報共有などにより地域の進出意向の把握に努めている。また、現在も数件の企業において進出相談を受けており、令和3年度には2社の新規工場等が設置された。 《道路整備課》 児玉工業団地線の用地買収率は、99.9%であり整備率は41.1%である。神流リバーサイドロードは、詳細設計を完了し、工事（L=430m）が完了した。 | 順調 | 《産業振興課》 SA周辺、児玉工業団地内に進出可能な用地がないため、旧農工法導入地区への企業誘致を優先しながら、新たな工業系土地利用の調査研究を進める。 《道路整備課》 児玉工業団地線は、順次整備の進捗を図る。神流リバーサイドロードは、用地買収と併せ工事の進捗を図る。 | リバーサイドロード整備状況 | 工事 | 用地測量 | 用地測量・工事 | ①大きく達成（数値目標の場合は100%以上） | 順調 | 目標値に届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。 | 継続 | 本部の意見と同じ | 継続 | R8完成予定 |
| | | | 産業振興課 | 旧農工法導入地区への企業誘致の推進に加え、SA周辺産業団地の拡張や下水道用地の活用方法について、検討を行なった。 | 埼玉県企業局や企業立地課等関係機関との情報共有を密にしなが、新たな土地利用について、検討を進めている。 | 概ね順調 | 旧農工法導入地区への企業誘致を優先しながら、新たな工業系土地利用の調査研究を進める。 | 研究の進捗 | 活動報告 | 進捗報告 | 進捗報告 | ②ほぼ達成（数値目標の場合は70%以上100%未満） | 概ね順調 | 今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。 | 継続 | 本部の意見と同じ | 継続 | 埼玉県企業局等と連携し情報を収集する |
| | | | 産業振興課 | 令和3年度は1社に対し奨励金の交付を行った。また、旧農工法導入地区への立地を促進するため奨励金制度の拡充を行った。（令和4年4月から運用） | 令和元年度には水道課入金奨励金を追加、令和3年度には旧農工法導入地区への誘致を促進するため、制度の充実を行っている。 | 概ね順調 | 奨励金の拡充の効果が発揮されるよう制度のPRを行う。 | 上里町企業誘致条例に基づく新規誘致企業数 | 累計2社 | 累計2社 | 累計1社（新規1社） | ③未達成（数値目標の場合は70%未満） | 概ね順調 | 計画期間内に数値目標を達成できるよう、制度の充実と共に制度の周知について、引き続き実施すること。また、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。 | 継続 | 本部の意見と同じ | 継続 | 5年間の合計数2社 |
| 基本的な方向 (2) 農業の担い手不足対策の推進 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | ①新規就農者に対する支援 | 産業振興課 | 産業振興課 | 農地の確保や機械導入、経営の安定など、新規就農の課題を解決するため、関係機関と連携した相談体制等により支援を行っている。また、就農直後の経営確立を支援するための資金給付事業を行い、令和3年度は2名が事業を利用している。 | 就農相談のサポート体制が構築され、関係機関と連携した支援により、新規就農者が町の中心的経営体として活躍する姿も見られるようになっている。 | 順調 | 農業次世代人材投資資金（旧：青年就農給付金）の適切な活用により次世代の担い手の確保を図るとともに、農林振興センター、農協、農業委員会と連携し、認定農業者等の包括的な経営支援を行う。 | 新規就農者数 | 累計40人 | 累計16人 | 累計14人（年13人） | ①大きく達成（数値目標の場合は100%以上） | 順調 | 目標値に届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。 | 継続 | 本部の意見と同じ | 継続 | 5年間の合計数40人 |
| | | | 産業振興課 | 本庄農林振興センター、JA、農業共済組合、及び郡内市町の連携により「児玉地域担い手育成総合支援協議会」を組織し、新規就農希望者が就農できる体制づくりとして「児玉地域明日の担い手育成塾」を開催し、担い手の育成に取り組んでいる。 | 「児玉地域明日の担い手育成塾」において、令和3年度は1名が町内指導農家にて研修を実施した。 | 順調 | 高齢化による離農が懸念される中、スマート農業の導入や安定的な農業継承の支援により、経営継続、農地利用を促進する。 | 新規就農者数 | 累計40人 | 累計16人 | 累計14人（年13人） | ①大きく達成（数値目標の場合は100%以上） | 順調 | 目標値に届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。 | 継続 | 本部の意見と同じ | 継続 | — |
| | | | 産業振興課 | 旧上里南部土地改良事業を実施した区域で、大御堂・三町地区の受益地（約83ha）を対象に受領会の開催と個別訪問を行った。 | 平成27年度から対象地区を選定し、実施している。過去7年間の集積面積は約3割で、今年度においても約3割の面積を集積した。 | 順調 | 平成27年度から10か年で町内全域を対象に実施する予定で、引き続き推進を行う。 | 農地中間管理事業対象実施面積 | 443ha | 160ha | 163ha | ①大きく達成（数値目標の場合は100%以上） | 順調 | 目標値に届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。 | 継続 | 本部の意見と同じ | 継続 | 令和3年度改訂により、5年間の合計面積458ha ※個別計画による計画期間10年間（H27～R6年度）の対象実施面積は901ha |
| 7 | ④スマート農業の推進 | 産業振興課 | 産業振興課 | スマート農業についての研究、情報収集を行っている。必要に応じて町内の農業者に対し情報提供するとともに、実施にあたっては必要な支援を行う。 | 補助事業（産地パワーアップ事業）を活用し、町内の農業法人により圃場作業自動化農業が実施されている。ドローンによる薬剤散布について法令等の確認及び周知を行っている。 | 概ね順調 | ドローンを活用したスマート農業等について研究を進める。 | スマート農業の支援制度についての周知 | 報告 | 報告 | 報告 | ②ほぼ達成（数値目標の場合は70%以上100%未満） | 概ね順調 | 今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。 | 継続 | 本部の意見と同じ | 継続 | 説明会の定期的な開催、利用があった場合の報告 |
| | | | 産業振興課 | スマート農業についての研究、情報収集を行っている。必要に応じて町内の農業者に対し情報提供するとともに、実施にあたっては必要な支援を行う。 | 補助事業（産地パワーアップ事業）を活用し、町内の農業法人により圃場作業自動化農業が実施されている。ドローンによる薬剤散布について法令等の確認及び周知を行っている。 | 概ね順調 | ドローンを活用したスマート農業等について研究を進める。 | スマート農業の支援制度についての周知 | 報告 | 報告 | 報告 | ②ほぼ達成（数値目標の場合は70%以上100%未満） | 概ね順調 | 今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。 | 継続 | 本部の意見と同じ | 継続 | 説明会の定期的な開催、利用があった場合の報告 |
| | | | 産業振興課 | スマート農業についての研究、情報収集を行っている。必要に応じて町内の農業者に対し情報提供するとともに、実施にあたっては必要な支援を行う。 | 補助事業（産地パワーアップ事業）を活用し、町内の農業法人により圃場作業自動化農業が実施されている。ドローンによる薬剤散布について法令等の確認及び周知を行っている。 | 概ね順調 | ドローンを活用したスマート農業等について研究を進める。 | スマート農業の支援制度についての周知 | 報告 | 報告 | 報告 | ②ほぼ達成（数値目標の場合は70%以上100%未満） | 概ね順調 | 今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。 | 継続 | 本部の意見と同じ | 継続 | 説明会の定期的な開催、利用があった場合の報告 |
| 基本的な方向 (3) 農業の6次産業化による「かみさとブランド」の確立 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 | ①特色を生かした6次産業化の検討 | 産業振興課 | 産業振興課 | 梨やイチゴ、ニンジン等の上里町の特産品を使用した加工品のPR活動を様々なイベントを通して行っている。 | イベント開催が制限される中であつたが、このばなパーク付近観光農園等の活用による地元野菜を使った加工品についてJA、本庄農林と検討を行う。 | 概ね順調 | 県の6次産業化事業の活用など、農林振興センターと連携し、新商品の開発について検討を行う。 | ふるさと納税返礼品の内6次産業による商品数の割合 | 10.0% | 4.0% | 27.50% | ①大きく達成（数値目標の場合は100%以上） | 概ね順調 | 目標値に届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。 | 継続 | 個別検討により出された意見（別紙「個別検討シート」）により、取り入れられるものについては検討し、更なる事業の発展に努めてほしい。 | 継続 | 5年間の合計数・5品 |
| | | | 産業振興課 | 梨やイチゴ、ニンジン等の上里町の特産品を使用した加工品のPR活動を様々なイベントを通して行っている。 | イベント開催が制限される中であつたが、このばなパーク付近観光農園等の活用による地元野菜を使った加工品についてJA、本庄農林と検討を行う。 | 概ね順調 | 県の6次産業化事業の活用など、農林振興センターと連携し、新商品の開発について検討を行う。 | ふるさと納税返礼品の内6次産業による商品数の割合 | 10.0% | 4.0% | 27.50% | ①大きく達成（数値目標の場合は100%以上） | 概ね順調 | 目標値に届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。 | 継続 | 個別検討により出された意見（別紙「個別検討シート」）により、取り入れられるものについては検討し、更なる事業の発展に努めてほしい。 | 継続 | 5年間の合計数・5品 |
| | | | 産業振興課 | 梨やイチゴ、ニンジン等の上里町の特産品を使用した加工品のPR活動を様々なイベントを通して行っている。 | イベント開催が制限される中であつたが、このばなパーク付近観光農園等の活用による地元野菜を使った加工品についてJA、本庄農林と検討を行う。 | 概ね順調 | 県の6次産業化事業の活用など、農林振興センターと連携し、新商品の開発について検討を行う。 | ふるさと納税返礼品の内6次産業による商品数の割合 | 10.0% | 4.0% | 27.50% | ①大きく達成（数値目標の場合は100%以上） | 概ね順調 | 目標値に届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。 | 継続 | 個別検討により出された意見（別紙「個別検討シート」）により、取り入れられるものについては検討し、更なる事業の発展に努めてほしい。 | 継続 | 5年間の合計数・5品 |

基本目標 1 町の資源を活かして、仕事をつくり、産業を盛んにする

| 項番 | 具体的施策 | 担当課 関係課 | 担当課による自己評価と今後の方針 | | | | KPI【重要業績評価指標】 | | | | 上里町まち・ひと・しごと創生本部 | | 上里町地方創生推進審議会 | | 備考 【KPIの補足など】 | | |
|--------------------------------|------------------|--------------|--|--|----------|--|-------------------------------------|--------------|-----------|------------|----------------------------|----------|---|----------|------------------|--------|------------------------------|
| | | | 具体的な取組の内容 | 施策の進捗等 | 自己 評価 | 今後の考え方 | KPI | 最終目標 (R6) | R3 目標値 | R3 実績値 | 達成度 | 本部評 価 | 本部の意見 | 取組方 針 | | 審議会の意見 | 取組 方針 |
| 基本的な方向 (4) 地域で活躍する人への支援 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 | ①創業支援の仕組みづくり | 産業振興課 | 創業支援事業計画に基づき、相談体制や支援事業などを行う。令和元年度より上里町で創業する起業者の支援のため、上里町起業支援事業を開始した。 | 令和2年度より創業支援事業計画については実施機関を追加（県産業振興公社）し充実を図るとともに、上里町起業支援事業を改正し利用しやすい環境の整備を行った。（上里町起業支援事業補助金件数実績：令和2年度・3件、令和3年度・0件） | 概ね順調 | 起業意向者に対して、商工会等と連携し創業支援事業計画もとづく支援を推進するとともに、町起業支援事業の適切な運用を図る。 | 上里町起業支援事業補助金件数 | 累計5件 | 累計2件 | 累計3件 | ①大きく達成（数値目標の場合は100%以上） | 概ね順調 | 目標値に届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。 | 継続 | 本部の意見と同じ | 継続 | 5年間の合計数・2件 |
| 10 | ②地域おこし人材への支援 | 総合政策課・総務課 | 上里町の魅力や価値の向上に貢献する人材を外部から招き、地域で活動する人材への様々な支援を行う地域活性化企業人（企業人材派遣制度）などの研究を行い、有効な活用について検討する。 | まずは、総合政策課の業務について、地域活性化企業人の活用が可能か検討を行った。検討の結果、企業人制度ではないが、令和4年度に民間企業より非常駐派遣職員を招致することとなった。 | 概ね順調 | 今後も、引き続き制度を活用している先進地の状況を注視し検討を進める。 | 地域活性化企業人（企業人材派遣制度）の活用についての検討の状況について | 支援実施 | 検討報告 | 報告 | ②ほぼ達成（数値目標の場合は70%以上100%未満） | 概ね順調 | 検討の結果、制度の活用には至らなかったが、民間企業人の派遣について実施することで一定の成果はあったと思われる。令和2年度評価の審議会意見のとおりに役場内での本制度活用の可能性をよく検討すること。 | 継続 | 本部の意見と同じ | 継続 | 令和3年度までに検討結果を出す《進捗報告方法》検討の報告 |
| 基本的な方向 (5) 働く機会の確保 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 | ①就職相談の実施 | 産業振興課・子育て共生課 | 《産業振興課》 産業振興課内に相談窓口を設置し求人情報の提供などを行っている。また、北部地域地方創生推進協議会就職支援事業部会では、高校生を中心に、大学生・短大生やUターン・Iターンの地元就職希望者を対象とした北部地域合同企業説明会を開催している。 《子育て共生課》 児童扶養手当現況届受付時にハローワーク職員に来てもらい就職相談をしてもらった。また、北部福祉事務所でも随時就職相談を受けているので、チラシの配布をした。相談を受けた際は、ハローワークからの就職案内、北部福祉事務所からのチラシを渡した。 | 《産業振興課》 ハローワークの求人情報の提供は、個人が入手できる環境が整っている。県北7市町で組織する埼玉県北部地方創生推進協議会（就職支援事業部会）開催の北部地域合同企業説明会は、感染症拡大の影響があるなか、オンラインによる実施となった。 《子育て共生課》 児童扶養手当現況届受付時にハローワーク職員に来てもらい就職相談をしてもらった。また、北部福祉事務所でも随時就職相談を受けているので、チラシの配布をした。相談を受けた際は、ハローワークからの就職案内、北部福祉事務所からのチラシを渡した。 | 概ね順調 | 《産業振興課》 求人情報の精査を行い、特に、再就職を希望する学生や女性に対する的確な情報提供を行う。 《子育て共生課》 引き続き北部福祉事務所、ハローワークと連携し、ひとり親家庭を対象に就職相談を受けていく。 | 就職相談者数 | 累計40人 | 累計16人 | 累計15人（年9人） | ①大きく達成（数値目標の場合は100%以上） | 順調 | 目標値に届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。 | 継続 | 本部の意見と同じ | 継続 | 5年間の合計数40人（現在の年平均利用者数を維持する） |
| 12 | ②元気な高齢者が活躍する場の充実 | 高齢者いきいき課 | 健康で活動意欲のある高齢者に対し、働く場や機会を拡充するため、上里町シルバー人材センターが安定的に運営できるよう補助金を交付した。高齢者の地域社会の参加の場として上里町シルバー人材センターの活性化を図るために、広報活動の一つとして、定期的に「お仕事説明会」の記事を奇数月の町広報誌に内容を変えながら掲載した。 | 登録者数の目標値を大幅に上回って達成できた。シルバー人材センターの地道な勧誘活動と併せて、登録者数の増加に非常に有効だった。 | 順調 | 継続して上里町シルバー人材センターによる高齢者の働く場や機会を拡充するため、広報等に努めて登録者の増加を支援していきたい。また、上里町シルバー人材センターへの補助金等による基盤強化を図りながら、第8期計画に盛り込んだ元気高齢者へのセミナー実施事業等の介護人材の確保施策を県と連携して検討する。 | シルバー人材センター登録者数 | 240人 | 225人 | 245人 | ①大きく達成（数値目標の場合は100%以上） | 順調 | 目標値に届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。 | 継続 | 本部の意見と同じ | 継続 | — |

基本目標2 「かみさと」の魅力を生み出し、発信し、人を呼び込む

| 項番 | 具体的施策 | 担当課 関係課 | 担当課による自己評価と今後の方針 | | | | KPI【重要業績評価指標】 | | | | | 上里町まち・ひと・しごと創生本部 | | | 上里町地方創生推進審議会 | | 備考 【KPIの補足など】 |
|-------------------------|--|------------|--|--|----------|---|---------------|--------------|-----------|-----------|------------------------|------------------|---|----------|--------------|----------|------------------|
| | | | 具体的な取組の内容 | 施策の進捗等 | 自己 評価 | 今後の考え方 | KPI | 最終目標 (R6) | R3 目標値 | R3 実績値 | 達成度 | 本部評 価 | 本部の意見 | 取組方 針 | 審議会の意見 | 取組 方針 | |
| 基本的な方向 (1) 町の魅力を全国へ情報発信 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13 | ア、ICT6を活用した情報発信の推進 ①積極的なタウンプロモーションの展開 | 総務課 | 平成28年12月のホームページのリニューアル以降、各課で積極的な記事掲載を行っている。町制施行50周年記念サイトを新たに作成し町内外への周知を図った。新たな情報発信ツールとして公式LINEを令和3年4月1日から開始した。また、コロナ禍で人が集まれない状況下において、YouTubeも積極的に活用し、各種説明会に代わる情報発信として活用した。 | ホームページの年間アクセス数は年々増加傾向にあり、リニューアル後のホームページの町の宣伝効果はあると思われる。最新の情報は各課で掲載し、随時更新が行われている。新たに開始した公式LINEの友だち登録者数は順調に増加しており、年度末には約3,500人にブッシュ型で情報発信を行った。また、YouTubeを活用することで、会議や説明会等で町民の方々を集めることなく、情報発信を行った。新たな生活様式の中での情報発信として、今後、更に利用頻度が高まっていくことが予想される。 | 順調 | ホームページへの関心は高く、より見やすく、検索しやすいホームページを目指し、令和4年度にフルリニューアルを実施する。併せて、LINE等のSNSも積極的に活用するなど、引き続き多角的な情報発信を行っていききたい。なお、KPIのうち、ホームページ閲覧数はコロナの影響により一時的に増加しているためこのままとするが、SNS等登録者数は、上方修正を行う。 | ホームページ年間閲覧数 | 250,000件 | 150,000件 | 544,072件 | ①大きく達成(数値目標の場合は100%以上) | 順調 | 目標値に届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。 | 一部見直し | 本部の意見と同じ | 一部見直し | — |
| | | | | | | | SNS等登録者数 | 4,000人 | 2,500人 | 4,130人 | ①大きく達成(数値目標の場合は100%以上) | | | | | | |
| | | | | | | | 広報紙閲覧アプリ登録者数 | 1,000人 | 500人 | 966人 | ①大きく達成(数値目標の場合は100%以上) | | | | | | |
| 14 | イ、「こむぎっち」による町のPR | 総務課 | 「こむぎっち」については、令和2年度に2体目のエアを着ぐるみと雨天時でも活動できるよう専用のレインコートを追加作成した。今後、1体目のエアを着ぐるみは主に貸し出し用として利用し、2体目については町のイベントで利用していく。令和3年度はコロナ禍でイベントが限られていたが、その中でも積極的に参加し、できる限りのPRに努めた。また、啓発品としてボールペンやトートバッグを作成した。 | 令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントの多くが中止となり、こむぎっちによる町のPRの機会がほとんど無かった。着ぐるみの貸し出しにおいても同様である。唯一、コロナ禍で開催された世界キャラクターさみっと(オンラインイベント)に参加し、こむぎっちのPR動画を投稿することにより、町のイメージアップに努めた。 | やや不調 | 今後についても県や県内市町、隣接市町で参加要請されるイベントについて、積極的に参加し、情報交換も行いながら他市町と連携を強化し、「こむぎっち」による町のPRに力を入れていきたい。 | こむぎっち町外出張件数 | 15件 | 15件 | 5件 | ③未達成(数値目標の場合は70%未満) | やや不調 | 令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により目標値の達成には至らなかった。イベント等現地に赴く以外の、様々な媒体でのこむぎっち活用については、引き続き検討し、町のPRに努めること。 | 継続 | 本部の意見と同じ | 継続 | — |
| | | | | | | | ふるさと納税者数 | 530人 | 309人 | 713人 | ①大きく達成(数値目標の場合は100%以上) | | | | | | |
| 15 | ふるさと納税制度を活用した特産物のPR | 総合政策課 | ポータルサイトの運用改善、事業者や関係課との情報交換などにより返礼品の充実や寄附額の増加を図った。 | ワンストップ特例申請支援システムや返礼品登録システムの活用などにより、事務負担の軽減が図られた。また、事業者との調整により新規返礼品の追加があった。 | 順調 | 第2期総合戦略に掲げる目標値(ふるさと納税者数530人)は達成したものの、更なるふるさと納税者数の増加に向け、制度の動向を注視しつつ、引き続きポータルサイトの運用改善、返礼品の充実等を図る。なお、KPIについては、伸び率等を勘案し上方修正を行う。 | ふるさと納税者数 | 530人 | 309人 | 713人 | ①大きく達成(数値目標の場合は100%以上) | 順調 | 目標値に届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。 | 一部見直し | 本部の意見と同じ | 一部見直し | — |

基本目標 2 「かみさと」の魅力を生み出し、発信し、人を呼び込む

| 項番 | 具体的施策 | 担当課 関係課 | 担当課による自己評価と今後の方針 | | | | KPI【重要業績評価指標】 | | | | | 上里町まち・ひと・しごと創生本部 | | | 上里町地方創生推進審議会 | | 備考 【KPIの補足など】 |
|----------------------------------|--------------------|----------------------|--|--|----------|--|----------------------|---------------|---------------|-----------|----------------------------|------------------|---|----------|--------------|----------|---------------------------------|
| | | | 具体的取組の内容 | 施策の進捗等 | 自己 評価 | 今後の考え方 | KPI | 最終目標 (R6) | R3 目標値 | R3 実績値 | 達成度 | 本部評 価 | 本部の意見 | 取組方 針 | 審議会の意見 | 取組方 針 | |
| 基本的方向 (2) 観光事業の推進による交流人口・関係人口の増加 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 16 | ①上里サービスエリア周辺地区の整備 | 産業振興課・総合政策課・まちづくり推進課 | <p>《総合政策課》 上里サービスエリア周辺地区整備事業推進庁内連絡協議会を開催し、関連整備事業も含め、進捗状況を確認した。令和3年度に整備された「このはな芝生広場」の広報を行った。</p> <p>《産業振興課》 令和2年度より農業体験ゾーンにおいて実施している「田んぼオーナー制度」(JA主催)は3年目に入り、募集人数を倍増(10人→20人)するなど、充実が図られた。アグリパーク上里は内食の拡大もあり来場者が増加している。</p> <p>《まちづくり推進課》 令和3年度に公園ゾーンに「このはな芝生広場」を整備した。</p> | <p>《総合政策課》 上里サービスエリア周辺地区整備事業推進庁内連絡協議会を開催し、関連整備事業も含め、進捗状況を確認した。令和3年度に整備された「このはな芝生広場」の広報を行った。</p> <p>《産業振興課》 農業体験ゾーンにおける事業は充実が図られている。しかしながら、令和2年度に続き、感染症拡大の影響によりこのはなフェスなど主客イベントは開催自粛となった。令和2年度に農業体験ゾーンにおいて開始された田んぼオーナー制度には町外在住の方が参加し神流清流米他町農産物の収穫などを実施している。</p> <p>《まちづくり推進課》 令和3年度に公園ゾーンに「このはな芝生広場」を整備した。</p> | 概ね順調 | <p>《総合政策課》 駐車場の整備について検討を開始する。</p> <p>《産業振興課》 農村公園の運営主体「埼玉ひびきの農協」及びこのはなパーク関連事業者と協力し、イベント等のPR活動を通じて周辺地区の活性化を図る。</p> <p>《まちづくり推進課》 令和4年度は公園ゾーンに休憩施設や安全施設としてフェンス等の設置を予定している。公園ゾーンの整備目標であるイベント広場として活用可能な環境となり整備完了となる。</p> | アグリパーク年間来客数 | 350,000人 | 281,138人 | 268,734人 | ②ほぼ達成(数値目標の場合は70%以上100%未満) | 概ね順調 | <p>施策として効果があった。今後もサービスエリア周辺整備事業を計画的に推進すること。</p> | 継続 | 本部の意見と同じ | 継続 | — |
| 17 | ②上里ゴルフ場の活性化 | まちづくり推進課 | <p>新型コロナウイルス感染症対策として、パーティ禁止、アルコールの提供停止を実施したが、天候に恵まれ利用者数は目標を上回った。</p> | 令和3年度の来場者数は50,170人の来場者数であった。 | 順調 | 必要に応じて取り組み方法を工夫していく。 | 上里ゴルフ場年間利用者数 | 47,500人(現状維持) | 47,500人(現状維持) | 50,170人 | ①大きく達成(数値目標の場合は100%以上) | 順調 | <p>目標値に届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し。更なる発展を目指すこと。</p> | 継続 | 本部の意見と同じ | 継続 | — |
| 18 | ③まちの資源を活かしたイベントの開催 | 産業振興課・生涯学習課 | <p>新たなイベントとして「このはなフェス」を開催する。</p> <p>上里SAの「このはな芝生広場」の開設に合わせ、運用方針について関係課との調整を行った。</p> <p>令和2年度に続き、感染症拡大の影響によりこのはなフェスなど主客イベントは開催自粛となった。</p> | 令和2年以降、このはなフェスの実施に向け産業観光会議の設置等を行ってきたが、感染症拡大の影響により開催自粛となっている。 | 概ね順調 | <p>感染症拡大の影響下でのイベント実施方法の検討を行なう。</p> | 新しいイベント創出の進捗 | 検討報告 | 検討報告 | 検討報告 | ②ほぼ達成(数値目標の場合は70%以上100%未満) | 概ね順調 | <p>新型コロナウイルス感染症の影響により事業実施には至らなかったが、令和3年度に整備された「このはな芝生広場」の運用方針の調整などを実施した。感染症拡大の影響にあっても、事業が実施できるよう引き続き検討すること。</p> | 継続 | 本部の意見と同じ | 継続 | 町の資源を活かしたイベントの開催《進捗報告方法》検討の進捗報告 |
| 基本的方向 (3) 若者を中心としたU I Jターンの促進 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 19 | ①移住促進事業の展開 | 総務課 | <p>将来、上里町への移住へと結びつける目的として、県北部地域(7市町)で連携し、移住定住促進ホームページ「埼玉移住」を運用している。望郷心を高め、Uターンを考えるきっかけとなるよう、さまざまな情報発信・アプローチを実施していく。積極的にふるさと紹介関連イベントへ参加し、町のPRを行う。</p> | <p>北部地域連携事業として、埼玉移住のホームページに「埼玉」の魅力紹介記事を掲載する特派員の業務委託を開始した。</p> <p>特派員に各市町を実際に巡ってもらい、地域の魅力を記事にしてPRを行う。</p> <p>令和4年度には上里町の記事も掲載予定。また、審議会での意見のとおり、令和2年度の実績値は非常に厳しい内容であったため、既存のKPIの見直しを行い、より成果が分かりやすい指標に変更した。</p> | 概ね順調 | <p>今後も町の魅力・スケールメリットをいかした県北部のイメージアップにつなげ、積極的に情報発信・イベントに参加し、望郷心アップに繋げる。</p> <p>埼玉県を移住先の一つとして捉えられるように、7市町で連携し、新たな企画を実施していく。</p> | 埼玉移住ホームページ年間閲覧人数 | 13,000件 | 10,000件 | 10,271件 | ①大きく達成(数値目標の場合は100%以上) | 概ね順調 | <p>目標値に届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し。更なる発展を目指すこと。</p> | 継続 | 本部の意見と同じ | 継続 | 令和3年度改訂によりKPI変更 |
| 20 | ②空き家活用事業の推進 | 総合政策課 | <p>空き家のハウスクリーニングに対し補助金を交付する事により活用可能な空き家を確保し、空き家を持っている人とU I Jターナーをはじめとする空き家を活用したい人を結び、上里町への定住促進による地域の活性化を図ることを目的としている。</p> | 令和3年度の補助金交付実績は1件となっている。 | やや不調 | <p>「上里町空き家活用推進事業補助金」については継続していく。また広報活動についても継続して行っていく。</p> <p>なお、令和4年度の実績によつては事業の見直しも視野に入れ、より有効な事業を検討する。</p> | 移住者向け空き家クリーニング事業利用者数 | 累計25人 | 累計10人 | 累計1人(年1人) | ③未達成(数値目標の場合は70%未満) | やや不調 | <p>実績ができたものの目標値の達成には至らなかった。令和2年度評価の審議会意見にもある通り、事業そのものに工夫が必要である。他市町村の事例を参考により有効な事業を検討する必要がある。</p> | 継続 | 本部の意見と同じ | 継続 | 5年間の合計25人 |

基本目標3 結婚・出産・子育ての希望をかなえる

| 項番 | 具体的施策 | 担当課 関係課 | 担当課による自己評価と今後の方針 | | | | KPI【重要業績評価指標】 | | | | 上里町まち・ひと・しごと創生本部 | | | 上里町地方創生推進審議会 | | 備考 【KPIの補足など】 | |
|----------------------------------|------------------|-------------|---|--|----------|---|--|--------------|-----------|-----------------|--|----------|--|--------------|----------|------------------|---|
| | | | 具体的な取組の内容 | 施策の進捗等 | 自己 評価 | 今後の考え方 | KPI | 最終目標 (R6) | R3 目標値 | R3 実績値 | 達成度 | 本部評 価 | 本部の意見 | 取組方 針 | 審議会の意見 | | 取組 方針 |
| 基本的方向 (1) 出会いと婚活の支援 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 21 | ①出会い・婚活サポート事業の展開 | 総合政策課 | 東北7市町で構成する北部地域地方創生推進協議会の結婚支援事業部会で婚活イベントを実施し、北部地域在住者の結婚の希望を叶える場を提供する。また、町としては、県のSAITAMA出会いサポートセンターの協賛会員として、町内在住の未婚者への情報発信を実施している。 | 令和3年度は、結婚支援事業部会の事業として、東北7市町の在住者(女性は埼玉県在住者)に「AI診断付き、オンライン婚活パーティー」を実施した。コロナ禍のため通常規模の婚活イベントが実施できず定員40名と小規模イベントの実施であったが、オンラインを用い、新たな形式で実施できたことはよかった。2月には、別企画を計画していたが、コロナのまん延状況が悪化したため、急遽中止となった。また、令和3年度末のSAITAMA出会いサポートセンターの町民登録数は、昨年度末の26名から38名と大きく伸びている。 | 概ね順調 | 今後も引き続き、関係市町と協力し、魅力的なイベント開催や積極的な情報発信により事業展開をしていく。今後の事業展開としては、以前実施していた参集型のパーティー形式からオンライン形式の小規模イベントに移行している事から、KPIを「の見直しの検討が必要である。 | 婚活パーティーへの 上里町民の参加者 数(上里町民または、町で就業している人に限る) | 累計50人 | 累計20人 | 累計2人 (年1人) | ③未達成(数値目標の場合は70%未満) | 概ね順調 | KPIの目標達成には至らなかったが、コロナ禍に対応した事業の実施と成果が得られている。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。 | 一部見直し | 本部の意見と同じ | 一部見直し | 5年間の合計50人 |
| 基本的方向 (2) 妊娠・出産・発育や発達への支援 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 22 | ①不妊治療等への支援 | 健康保険課 | 不妊に悩む夫婦に対し、経済的負担軽減を図るべく、不妊治療に要した費用の一部の補助を実施。 | 令和3年度の件数は29件と令和2年度の17件より増加。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により減少したものと考えられる。 | 概ね順調 | 晩婚化の進展に伴い、不妊治療を受ける方の増加が想定される。今後も継続して制度のPRに努める。 | 不妊治療助成件数 | 累計150件 | 累計60件 | 累計46件 (年29件) | ②ほぼ達成(数値目標の場合は70%以上100%未満) | 概ね順調 | KPIの目標達成には至らなかったが、昨年度より件数が伸びていることから事業は概ね順調といえる。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。 | 継続 | 本部の意見と同じ | 継続 | 現状値はH28～30年度の平均 |
| 23 | ②妊婦の健康づくりの支援 | 健康保険課 | 妊娠中は女性ホルモンの関係でむし歯や歯周疾患にかかりやすい時期とされており、歯周病菌が早産のリスク因子となることも判明している。また親から子どもにむし歯菌を感染させてしまう可能性もある。産後は、育児の多忙さにより口腔内のケアが怠りやすくなるため、妊娠期間中に歯科健診を実施し、口腔衛生の向上を図る。 | 令和3年度の受診率は33.0%と令和2年度(30.4%)より増加した。新型コロナウイルス感染症の影響もあって減少しているが、令和3年度の3・4か月児健診受診者の95.6%が検査を受診している。 | 概ね順調 | 母子手帳交付時に行う個別の受診勧奨に加え、広報やHPで周知を行う。また、妊娠6～8か月頃に実施している「プレママコール」にて、未受診の場合には受診勧奨を行う。 | 妊婦歯科検診受診率 | 45.0% | 45.0% | 33.0% | ②ほぼ達成(数値目標の場合は70%以上100%未満) | 概ね順調 | 対象者が妊婦であることからコロナ禍における受診勧奨は、難しい側面があると思われる。今後も検診についての周知方法を研究し事業の推進に努めること。 | 継続 | 本部の意見と同じ | 継続 | — |
| 24 | ③発育・発達への支援 | 健康保険課・町民福祉課 | 《健康保険課》 5歳児健康相談は、軽度発達障害の早期発見・支援、及び就学に向けての相談を実施。また、発達全般に心配のある幼児やその保護者に対して、臨床心理士による発達相談も実施。 生れて間もない赤ちゃんが受ける新生児聴覚検査の費用の一部助成を実施。聴覚障害を早期発見し、早期療育開始を図る。 《町民福祉課》 発達が気になる子ども等への早期支援のための事業で町内の社会福祉法人事業所へ委託しており、発達障害に関する専門的な知識を有するもの(臨床心理士等)が町内の保育園・幼稚園などを定期的に巡回(年3回程)を行い、保育園での子供の様子から保育士等に対して子ども及び保護者への具体的な支援について助言・指導を行う。 | 《健康保険課》 5歳児健康相談の受診率について、R3年度は目標を大きく達成できた。新生児聴覚検査の受診人数は減少しているが、令和3年度の3・4か月児健診受診者の95.6%が検査を受診している。 《町民福祉課》 町内全保育園・幼稚園で実施した。専門的な知識を有する者が定期的に巡回し支援のための助言を受けられることにより、発達が気になる子ども等への早期支援する体制は整ってきている。 | 順調 | 《健康保険課》 5歳児健康相談は、引き続き軽度発達障害の早期発見・支援、及び就学に向けての相談を実施していく。新生児検査はR3年度より検査費用の助成が開始された。制度の周知を図り、受診率の向上に努める。 《町民福祉課》 発達が気になる子ども等への早期支援は重要なことであり、引き続き保育園及び幼稚園に事業の目的や必要性を理解いただきながら、発達が気になる子ども等への早期支援を行うための指導・助言を継続実施していく。 | 5歳児健康相談受診率 新生児聴覚検査 子ども発達支援巡回回数 | 94.0% | 94.0% | 97.3% | ①大きく達成(数値目標の場合は100%以上) ②ほぼ達成(数値目標の場合は70%以上100%未満) ②ほぼ達成(数値目標の場合は70%以上100%未満) | 順調 | 事業は順調に実施できており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。 | 継続 | 本部の意見と同じ | 継続 | 現状維持 5年間の累計810人 5年間の合計130回(年間で町内11保育園毎に年2～3回程度実施) |

基本目標3 結婚・出産・子育ての希望をかなえる

| 項番 | 具体的施策 | 担当課 関係課 | 担当課による自己評価と今後の方針 | | | | KPI【重要業績評価指標】 | | | | 上里町まち・ひと・しごと創生本部 | | | 上里町地方創生推進審議会 | | 備考 【KPIの補足など】 | |
|-------------------------------|----------------|-------------|--|--|----------|---|---------------------|--------------|------------|--------------|--|----------|--|--------------|----------|------------------|--------------------------|
| | | | 具体的な取組の内容 | 施策の進捗等 | 自己 評価 | 今後の考え方 | KPI | 最終目標 (R6) | R3 目標値 | R3 実績値 | 達成度 | 本部評 価 | 本部の意見 | 取組方 針 | 審議会の意見 | | 取組 方針 |
| 基本的方向 (3) 子育てしやすい環境の整備 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 25 | ア. 子育て情報サポート | 子育て 共生課 | ホームページを利用し、子育て世代への情報発信に努めた。また、保育、手当、給付金等の制度内容の周知も随時対応した。 | 子育て支援サイト「むぎゅっと」「はぐたま・かみさど」、児童館のイベント情報を公開し、また保育所入所申請書、児童手当各種手続き書類等をダウンロード可能にしていることで、わかりやすい情報提供を行った。 | 概ね順調 | 子育て世代の求める情報を届け、活用してもらえよう、HP等を利用した情報発信に今後も継続して進めていく。 | 子育て支援ページの閲覧数 | 45,000件 | 42,000件 | 38,876件 | ②ほぼ達成 (数値目標の 場合は70%以上 100%未満) | 順調 | 事業は順調に実施できており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。 | 継続 | 本部の意見と同じ | 継続 | 令和3年度改訂によりKPI変更(上方修正) |
| 26 | イ.働くパパママサポート | 子育て 共生課 | 保育所：待機児童の解消を目指し、子育ての環境整備を行うため、保育士の処遇改善を進めた。 放課後児童クラブ：職員の処遇改善を進め、また、公共施設再配置計画・維持保全計画に基づき、長幡児童館放課後児童クラブを長幡小学校に移転準備を進めた。 | 保育所：年度当初(4月1日)では入所調整ができ、待機児童数は0人となっているが、育児休業からの復帰等による年度途中の入所希望が増え、待機児童が発生した。0、1、2歳児の入所が困難な傾向があるが、保育所入所の円滑化の実施や近隣市町の広域利用等を行っている。 放課後児童クラブ：希望通り入所できない児童は発生したが、特定の放課後児童クラブを希望する等の理由もあると考えられる。町広報等にもクラブ生募集記事を掲載し、町内の放課後児童クラブを周知している。 | 概ね順調 | 保育所：0、1、2歳児の確保量に不足が生じており、年度途中に待機児童が発生する。子どもの数は減少傾向であるが、保護者の就労等による保育ニーズは高いという状況を見極めながら、就労と子育ての両立を可能にするための方策を検討する。 放課後児童クラブ：公立放課後児童クラブと民間放課後児童クラブとの利用調整について検証していく。 | 保育園待機児童数 | 0人 | 7人 | 7人 | ①大きく達成 (数値目標の 場合は100%以上) | 概ね順調 | 目標値に届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。 | 継続 | 本部の意見と同じ | 継続 | — |
| | | | | | | | 児童クラブ待機児童数 | 0人 | 3人 | 0人 | ①大きく達成 (数値目標の 場合は100%以上) | | | | | | |
| 27 | ウ.地域で子育てサポート | 子育て 共生課 | 就学前の子どもと保護者を対象に、保護者が気軽に育児相談やその他の子育て家庭との交流ができる地域子育て支援拠点を実施した。 子育て世代包括支援センターでは、相談支援や情報提供を行うなど、妊娠・出産・子育て期と切れ目ない支援を実施した。 地域で子育てを支えあう環境づくりを推進するため、ファミリー・サポート・センター事業の運営を通じて子育てを希望する人と支援する人の相互援助活動に対する支援を実施した。地域において親子で活動しているサークル等に対して財政的支援のため補助事業も行った。また、緊急サポートセンター事業、子育て短期支援事業を実施した。 | ファミリー・サポート・センター事業：習い事の送迎等就学児の保護者の利用が多く、保護者の就労と子育ての両立支援の一助となっている。 親子サークル：利用なし 緊急サポートセンター事業：利用なし 子育て短期支援事業：利用なし 子育て支援拠点：子育て世代包括支援センター等を通じ、子育て支援拠点の周知を行った。子育て親子の交流や気軽に相談できる場の提供等の実施はできている。しかし、支援拠点が1か所と少ないため、令和4年度には、長幡児童館において、支援拠点を開始するための準備を行った。 | 概ね順調 | 子育て支援拠点：広報、ホームページ、また子育て世代包括支援センターでも情報発信に努めるなど連携して事業を進める。令和4年4月に開始した長幡児童館での「こむぎっくらぶ」の周知を徹底する。 ファミリー・サポート・センター事業：今後も周知を行い、会員数の増加を図り地域で子育てを支える環境整備を進める。 親子サークル：実施要綱の見直しも行ったうえで、状況が変わらないということであれば、廃止について検討する必要がある。(子育て支援策としては、新たに病児病後児の預かりを相互援助活動によって行う「緊急サポートセンター事業」や「子育て短期支援事業」を実施する) | 地域子育て支援拠点利用者数 | 2,830人 | 2,497人 | 1,440人 | ③未達成(数値目標の場合は70%未満) | 概ね順調 | 子育て支援拠点利用者数の数値目標が、計画期間内に達成できるよう今後も事業の継続と、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。 | 継続 | 本部の意見と同じ | 継続 | 「第2期上里町子ども・子育て支援事業計画」による |
| | | | | | | | ファミリー・サポート・センター利用者数 | 400回 | 380回 | 352回 | ②ほぼ達成 (数値目標の 場合は70%以上 100%未満) | | | | | | |
| 28 | エ.地域の子育て環境サポート | 生涯学習課・町民福祉課 | 《生涯学習課》 放課後子ども教室の「のびっこ教室」は、全小学校で実施し、異年齢の仲間と安全かつ安心して学習や体験活動、様々な遊びなどを通して交流を図れる居場所づくりを目的としている放課後子ども教室において、小学校低学年向け「のびっこ教室」は全小学校で実施することができた。また、子どもたちの休日に体験活動や文化活動等を開催し、子どもたちが、地域住民や異年齢との交流を図ることを目的としているチャレンジクラブにおいても、米作り体験教室など、全小学校へ募集をし実施することができた。 《町民福祉課》 食事や遊びの場などを提供する子ども達の居場所づくりへの取り組みに対して、社会福祉協議会とともに支援を行う。 | 《生涯学習課》 引き続き、放課後子ども教室の「のびっこ教室」は、全小学校で実施し、異年齢の仲間と安全かつ安心して学習や体験活動、様々な遊びなどを通して交流を図れる居場所づくりを実施することができた。「のびっこ教室」においては、現場で活動しているサポーター等の高齢化に伴い、新しいスタッフの確保が課題である。チャレンジクラブについても、子どもたちの休日に体験活動や文化活動等を開催し、子どもたちが、地域住民や異年齢との交流を図ることを目的に実施する。 《町民福祉課》 「こども食堂」の開設から一定期間経った頃に、事例報告会と合わせてセミナーを開催したいと考えていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、実施できていない。事例報告会及びセミナーを開催し、事業の周知や連携の強化を図るべく取り組んでいく。 | 順調 | 《生涯学習課》 引き続き、放課後子ども教室の「のびっこ教室」は、全小学校で実施し、異年齢の仲間と安全かつ安心して学習や体験活動、様々な遊びなどを通して交流を図れる居場所づくりを実施する。そして、新しいボランティアスタッフの確保に努める。 チャレンジクラブについても、子どもたちの休日に体験活動や文化活動等を開催し、子どもたちが、地域住民や異年齢との交流を図ることを目的に実施する。 《町民福祉課》 「こども食堂」の開設から一定期間経った頃に、事例報告会と合わせてセミナーを開催したいと考えていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、実施できていない。事例報告会及びセミナーを開催し、事業の周知や連携の強化を図るべく取り組んでいく。 | のびっこ教室への参加者数 | 120人(現状維持) | 120人(現状維持) | 91人 | ②ほぼ達成 (数値目標の 場合は70%以上 100%未満) | 順調 | 目標値に届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。 | 継続 | 本部の意見と同じ | 継続 | 5年間で5か所設置 |
| | | | | | | | 子ども食堂の設置数 | 累計5か所 | 累計2か所 | 累計2か所(年間1か所) | ①大きく達成 (数値目標の 場合は100%以上) | | | | | | |
| 29 | オ.子育て家計サポート | 子育て 共生課 | 令和3年4月より開始。出生した子ども1人につき出産祝い金として1万円を、また出産祝い品として木製食器セット、木製子ども用いすを支給することにより、乳児期の子育てに係る経済的負担を軽減し子どもの健やかな成長を促進する。 | 出生届提出時に申請してもらい(ほぼ100%)、乳児期の子育てに係る経済的負担を軽減することができた。 | 順調 | 引き続き、出産祝い金(1万円)と出産祝い品(食器セットといす)を贈呈する。令和4年度には、食器セットを数種類用意して、選べるようにする。 | 第3子以降保育料等軽減対象者数 | 112人 | 112人 | 107人 | ②ほぼ達成 (数値目標の 場合は70%以上 100%未満) | 順調 | 施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。 | 継続 | 本部の意見と同じ | 継続 | 減少を抑え現在の水準を維持 |
| 30 | エ.いのちの大切さサポート | 子育て 共生課 | 町内の小学5年生を対象とし、助産師を講師として「いのちの大切さ」前講座を実施する。 | いのちの大切さ前講座においては、専門職である助産師から体験に基づいた講座を開くことで「生まれてくること、いのちの大切さが分かった」という意見を多く聞くことができた。 | 概ね順調 | いのちの大切さ前講座を引続き町内各小学校で実施していく。 | いのちの大切さ前講座、講演会参加者数 | 累計1,711人 | 364人 | 302人(累計302人) | ②ほぼ達成 (数値目標の 場合は70%以上 100%未満) | 概ね順調 | 施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。 | 継続 | 本部の意見と同じ | 継続 | 5年間の合計数1711人 |

基本目標3 結婚・出産・子育ての希望をかなえる

| 項番 | 具体的施策 | 担当課 関係課 | 担当課による自己評価と今後の方針 | | | | KPI【重要業績評価指標】 | | | | 上里町まち・ひと・しごと創生本部 | | | 上里町地方創生推進審議会 | | 備考 【KPIの補足など】 | |
|----------------------------|---------------------------|------------|---|--|----------|--|---|--------------|--|-----------|------------------------|----------|---|--------------|----------|------------------|----------|
| | | | 具体的な取組の内容 | 施策の進捗等 | 自己 評価 | 今後の考え方 | KPI | 最終目標 (R6) | R3 目標値 | R3 実績値 | 達成度 | 本部評 価 | 本部の意見 | 取組方 針 | 審議会の意見 | | 取組 方針 |
| 基本的方向 (4) 未来を担う子どもたちへの教育支援 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 31 | ①確かな学力の向上 | 教育指 導課 | <p>①埼玉大学等と連携し、教育学部の教授等を招聘し、共同的な学びを通して教師の指導力向上を目指す校内研修会を実施。実施状況は各小中学校年5回。</p> <p>②各学校へ総合的指導を行う学力向上指導員を配置し、きめ細かな教育支援を行い、学校全体の「学校力」、教員個々の「指導力」の向上を目指す。配置人数1名。</p> <p>③学び合い学習の推進を図るため、学び合い学習の先進校への視察を実施。実施状況年2回。</p> <p>④小・中学校の研修会の連携と町内全教職員を対象とした教育講演会の実施。講演会実施状況は年1回。</p> <p>⑤上里町全教職員を対象とした、上里町学力向上授業研究会(発表は毎年3校)の開催。研究会実施状況は年1回。</p> <p>⑥各種調査等から、特別な支援を要する児童生徒を事前に把握し、児童支援員や学習支援員、他、介助員や特別支援学級生活支援員を関係する学校に配置した。</p> <p>⑦県より委嘱を受けている「チーム埼玉学力向上パワーアップ事業」において、効果のあった取組を全校で共有した。</p> <p>⑧基礎学力のさらなる定着に向け、上里町学力向上推進委員会を開催し、各種調査の成果と課題を踏まえた各校の取組を共有した。</p> | <p>①②年間計画に位置付け、指導力向上につながる有意義な研修が実施された。</p> <p>③研修だけでなくとどまらず、日々の教職員の授業改善に向けたきめ細かな支援が行われ、教職員の授業における道しるべの役割となった。</p> <p>④⑤校内にとどまらず町内で学び合いについて見識を高めるとともに、各教職員が取り組むべき方向性を確認する。</p> <p>⑥児童支援員や学習支援員、介助員や特別支援学級生活支援員の配置により、個に応じた指導の充実を図ることができた。</p> <p>⑦上里町で推進している「学び合い学習」が各校で定着してきている。</p> <p>⑧新型コロナウイルス感染症拡大防止のため対策を講じながらの授業となったが、年間計画を工夫しながら、1人1人の学力保障を行うことができた。</p> | 概ね順調 | <p>①～⑤新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、大学教授を招聘しての研修会や多くの来校者を招いての研修会は中止したが、教育活動は継続し、児童生徒の学力向上に向けての取組みを継続していく。</p> <p>⑥～⑧県委嘱の新たに「学カスクラム事業」を受け、学力向上に向け研修している。成果は、上里町内の小中学校で共有する。</p> | <p>全国学力学習調査において全国平均を100とした時の上里町の値(国語・算数・数学)</p> <p>国語100 算数・数学100</p> <p>国語94 算数・数学91</p> <p>国語96 算数・数学88</p> <p>②ほぼ達成(数値目標の場合は70%以上100%未満)</p> | 95 | 95 | 99 | ①大きく達成(数値目標の場合は100%以上) | 概ね順調 | <p>計画期間内の数値目標達成に向け、各種取組を実施すること。また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、来校者を招く研修会等の実施が令和2年度に引き続き制限されているため、オンライン実施等、コロナ禍においても実施可能な方法の検討を引き続き検討すること。</p> | 継続 | 本部の意見と同じ | 継続 | 対象は小6と中3 |
| 32 | ②体を動かすことが好きな児童生徒の育成と体力の向上 | 教育指 導課 | <p>①トップアスリートで構成された体育実技指導員による体育授業の支援により、児童を運動好きにするともに体力と運動技能の向上を目指す。実施状況は各小中学校規模に振り分け総計500時間、配置人数2名。</p> <p>②中学校の部活動について、スポーツエキスパートとして外部指導者を配置し、体力向上や技能向上の支援を行う。実施状況は各校2名配置。</p> <p>③体力向上を推進するため、全小中学校から招集し、上里町体力向上推進委員会を実施している。実施状況は年4回。</p> <p>④一人一人の体力課題を把握し、課題解決に向けた体育授業・体育活動の実践を行った。</p> | <p>①専門的知識・技能を有したアスリートが指導に当たることで、児童の意欲・技能の向上と安全確保につながった。</p> <p>②体力・技能向上につながる効果的指導が行われた。</p> <p>③④各校・町の課題の分析を行い、課題解決策を検討・実施した。体力向上に向けた研究主題にせまり、情報を共有した。</p> | やや不調 | <p>日本女子体育大学、横浜国立大学等の連携を継続し、児童生徒の体力の向上に向けてきめ細やかな指導を行っていく。</p> | <p>新体力テスト(144種目)において県平均以上である種目数</p> <p>73種目</p> <p>53種目</p> <p>50種目</p> <p>②ほぼ達成(数値目標の場合は70%以上100%未満)</p> | 概ね順調 | <p>施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。</p> | 継続 | 本部の意見と同じ | 継続 | — | | | | |

基本目標3 結婚・出産・子育ての希望をかなえる

| 項番 | 具体的施策 | 担当課 関係課 | 担当課による自己評価と今後の方針 | | | | KPI【重要業績評価指標】 | | | | | 上里町まち・ひと・しごと創生本部 | | | 上里町地方創生推進審議会 | | 備考 【KPIの補足など】 | |
|--|--|------------|---|--|----------|---|--|-----------------------|------------------|----------------------|------------------------|------------------|---|----------|--------------|----------|--|----------------------------|
| | | | 具体的な取組の内容 | 施策の進捗等 | 自己 評価 | 今後の考え方 | KPI | 最終目標 (R6) | R3 目標値 | R3 実績値 | 達成度 | 本部評 価 | 本部の意見 | 取組方 針 | 審議会の意見 | 取組 方針 | | |
| 33 | ③子どもの学びを支える環境づくり | 教育指導課 | ①小中学校にて、家庭学習の推進のために「自主学習のすすめ」などを各校作成し、配布することで啓発をしている。 | ①各校4月に保護者向け、生徒向け「自主学習のすすめ」や「自主学習のやり方」など作成し配布した。日々、自主勉強ノートを提出させチェックと賞賛の声をかけた。 | 概ね順調 | ①引き続き、家庭学習の定着への取組を行う。中学3年生を対象とした「学力アップ教室」は今年度も継続し、誰1人取り残さない教育活動の推進に努める。 | 学力アップ教室への参加者数 | 40人(現状維持) | 40人 | 40人 | ①大きく達成(数値目標の場合は100%以上) | 概ね順調 | 事業は順調に実施できており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。 | 継続 | 本部の意見と同じ | 継続 | 減少を抑え現在の水準を維持 | |
| | | | ②中学校3年生を対象として、学習支援と希望する進路の実現をねらいとし、「学力アップ教室」を実施している。実施状況は年間55回実施。 | | | | ③保幼小連携会議、就学時健康診断、5歳児検診等の会議を通して、児童の適正を見極め、その子にあった教育が進められるように支援する。 | 上里っ子ジャンプ教室への参加者数 | 40人 | 18人 | 12人 | | | | | | | ②ほぼ達成(数値目標の場合は70%以上100%未満) |
| | | | ③特別支援教育を推進する。 | | | | ④特別な配慮を必要とする児童生徒に対しては、個別のA、Bプラン等を作成し、指導や支援を行う。 | 学校に行くことが楽しいと答えた児童生徒の数 | 小6 90% 中3 90% | 小6 87.8% 中3 85.6% | 小6 78.1% 中3 84.3% | | | | | | | ②ほぼ達成(数値目標の場合は70%以上100%未満) |
| | | | ④各校の特別支援学級を充実させ、1人1人の児童生徒の特性にあった教育を推進する。また、通常学級にいる児童生徒に対しても特別な配慮を必要とする児童生徒に対しては、個別のプラン等を作成し、指導や支援を行う。 | | | | ⑤児童生徒の学力向上に向け、家庭での基本的な習慣や家庭学習の大切さを家庭・地域に広く情報発信をした。 | 1年間に30日以上欠席した不登校児童生徒数 | 1%以下 | 1%以下 | 1.36% | | | | | | | ②ほぼ達成(数値目標の場合は70%以上100%未満) |
| | | | ⑤不登校対策や個に応じた相談体制をつくるために、教育相談機関として各中学校へさわやか相談員(2名)・スクールカウンセラー(2名)・小学校担当スクールカウンセラー(1名)を配置している。計5名配置。 | | | | ⑦不登校の要因が複合的要因(意欲傾向・家庭環境・精神的など)がさらに複雑化する中、個に応じた相談・支援が行われた。 | 携帯型翻訳機の年間使用回数 | 200回 | 140回 | 150回 | | | | | | | ①大きく達成(数値目標の場合は100%以上) |
| ⑥不登校対策や個に応じた支援体制をつくるために、教育相談機関として各小学校へ児童支援員を配置している。計5名配置。 | ⑧教育委員会が主催する連絡会議や各学校の生徒指導、教育相談部会に専門職が加わり、より専門的な指導、支援をすることにより個に応じた対応が適切に行うことができた。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑦不登校対策や個に応じた相談体制をつくるために、教育相談機関として各中学校へさわやか相談員(2名)・スクールカウンセラー(2名)・小学校担当スクールカウンセラー(1名)を配置している。計5名配置。 | ⑨～⑪各種研究授業をはじめ、日々の授業においてもタブレットパソコンなどのICTを効果的に活用した授業が増えた。プログラミング教育の実践や適用問題におけるタブレットの活用など、各種ICT機器を活用した授業の実践事例が各校に増えてきた。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑧不登校対策や個に応じた支援体制をつくるために、教育相談機関として各小学校へ児童支援員を配置している。計5名配置。 | ⑩GIGAスクール構想の実現に向けて、急速に動き始めた。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑨小学校5校に児童用タブレット60台及び投影機、書画カメラ等を設置した。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑩タブレットパソコンや書画カメラなどのICTの効果的な活用方法を校内研修会や学校訪問などで各学校に指導助言及び情報提供した。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑪ICT支援員が各校を巡回し、ICTを活用した授業作りなどについて指導助言及び情報提供をした。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 34 | ④郷土を深くくみ、豊かな心を持つ人材の育成 | 教育指導課 | 取組は、社会科の小学校学習指導要領の解説・第3学年の目標を踏まえ行います。 | ①上里町の位置、地形や土地利用、交通、町役場、消防署、警察などの場所と働きなどを見学し、理解した。 | 順調 | 社会的事象の見方・考え方を働かせ、学習も問題を追究・解決する活動を通して、児童の資質・能力を育成する。 | 小学校3年生・4年生の社会科における授業の実施状況 | 報告 | 報告 | 小3 70時間 小4 90時間 | ①大きく達成(数値目標の場合は100%以上) | 順調 | 目標値に届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。 | 継続 | 本部の意見と同じ | 継続 | 上里独自の教科書を使った郷土の学習(進捗報告方法)実施された授業時数と内容の報告(小学校3年生・4年生) | |

基本目標 4 時代の変化に対応し、安心してくらす地域をつくる

| 項番 | 具体的施策 | 担当課 関係課 | 担当課による自己評価と今後の方針 | | | | KPI【重要業績評価指標】 | | | | 上里町まち・ひと・しごと創生本部 | | | 上里町地方創生推進審議会 | | 備考 【KPIの補足など】 | | |
|----------------------------|-------------------------------|----------------|---|--|---|--|--|--------------|-----------|-----------|----------------------------|------------------------|---|---|--|------------------|--------------------------------|--|
| | | | 具体的な取組の内容 | 施策の進捗等 | 自己 評価 | 今後の考え方 | KPI | 最終目 標(R6) | R3 目標値 | R3 実績値 | 達成度 | 本部評 価 | 本部の意見 | 取組方 針 | 審議会の意見 | | 取組 方針 | |
| 基本的方向 (1) 安心安全でくらしやすいまちづくり | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 35 | ア. 地域防災計画の実践と地区防災計画策定支援 | くらし安全課 | 地域防災計画に基づき、職員研修を2回実施したほか、避難所における新型コロナウイルス感染症対策を実施するため、避難所開設・運営訓練と最新技術を活用した避難誘導及び情報伝達の効率化に資する実証実験を合わせて実施した。 | 訓練等の年間実施計画を作成し、進捗状況の把握を容易にしたほか、ノウハウの蓄積により防災意識及びスキルの向上と訓練水準の平準化を図ることができた。 | 順調 | 訓練や研修内容の更新や充実に向け、マンネリ化を防止し、職員の防災意識高揚を図る。 | 地域防災計画に基づき実施される職員研修の実施回数 | 累計10回 | 累計4回 | 累計4回(年2回) | ①大きく達成(数値目標の場合は100%以上) | 順調 | 目標値に届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。 | 継続 | 本部の意見と同じ | 継続 | 5年間の合計10回 | |
| 36 | ①災害に強いまちづくりの推進 | イ. 災害情報伝達手段の充実 | くらし安全課 | 電話回線の輻輳低減を図るため、電話応答サービスを利用できる回線を、既存の4回線から8回線に増設した。 | 電話応答サービスのほか、防災情報メール、エリアメール、HPやLINEに加え、コミュニティFM放送局など、多様な媒体・手段による情報発信手段を確保することができている。これらの情報発信手段について、町の広報誌や防災講習会などの機会を捉えて周知を図っている。 | 概ね順調 | 防災行政無線による情報発信を補完するため、新たなシステムや機材等の導入について検討する。 | 防災情報メール登録件数 | 6,000件 | 3,711件 | 5,091件 | ①大きく達成(数値目標の場合は100%以上) | 概ね順調 | 目標値に届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。 | 継続 | 本部の意見と同じ | 継続 | 令和3年度改訂によりKPIを変更変更点：人数から件数へ、R3実績によりKPIを上方修正(5,000件→6,000件) |
| 37 | ウ. 災害時における他自治体との連携強化の推進 | くらし安全課 | 協定締結自治体及び民間企業の担当者との間で、連絡先の共有を行った。 | 協定締結自治体に対し、相互に応援を要する事案はなかったが、災害が発生または発生する恐れがある場合には、相互に連絡を取ることができるよう連携強化に取り組んでいる。 | 概ね順調 | 連絡体制の確立及び相互の連絡先共有を継続して実施するほか、平時においても防災に関する交流を検討している。 | 協定における支援状況 | 支援の報告 | 支援の報告 | 支援の報告 | ②ほぼ達成(数値目標の場合は70%以上100%未満) | 概ね順調 | 支援を要する事案が無かったが、平時からの協議を行っていることから施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。 | 継続 | 本部の意見と同じ | 継続 | 《進捗報告方法》行った支援の報告(毎年度) | |
| 38 | ②犯罪のないまちづくりの推進 | くらし安全課 | 警察官OBを「安全安心まちづくり推進委員」として採用し、平日14時から18時まで、防犯パトロールを実施した。啓発用品としてのぼり旗を作成し、行政区に配布した。そのほか、自主防犯パトロール隊の活動に係る保険加入費用に対し、補助金を交付するなど活動の支援を実施した。 | 犯罪を未然に防止するための取り組みとして、一定の抑止効果があったと考える。 | 概ね順調 | 高齢化により、防犯パトロール隊員の確保が困難になってきている地域もあるため、支援の強化に努めたい。 | 防犯パトロール隊数 | 30隊 | 30隊 | 30隊 | ①大きく達成(数値目標の場合は100%以上) | 順調 | 目標値に届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。 | 継続 | 本部の意見と同じ | 継続 | 減少を抑え現在の水準を維持 | |
| 39 | ③交通事故のないまちづくりの推進 | くらし安全課 | 交通事故を防止するため、警察及び道路管理者等と協議し、町道上の交通安全施設の整備(道路反射鏡や道路区画線及び道路照明灯・防犯灯の設置・補修)を実施。交通安全教育として、町内全小学校を対象とした交通安全教室や自転車免許試験を実施。 | 交通事故は減少傾向にあるものの、埼玉県内での交通事故発生率は高い状況である。 | 順調 | 目標値を達成しているが、新型コロナウイルス感染症の蔓延による一時的な減少である可能性もあるため、交通事故減少の取組を継続して行っていく。 | 交通人身事故発生年間件数 | 147件以下 | 156件以下 | 77件 | ①大きく達成(数値目標の場合は100%以上) | 順調 | 目標値に届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。 | 継続 | 本部の意見と同じ | 継続 | R6で147件以下 | |
| 40 | ④高齢者が住み慣れた地域で、安心してくらすまちづくりの推進 | 高齢者いきいき課 | 高齢者見守りキーホルダーについて広報で周知するとともに、対象となる方には窓口相談や訪問で積極的に周知し、認知症又は認知症の疑いがある方には、キーホルダーと併せてSOSネットワークへの登録も勧めた。年度末に高齢者見守りネットワーク会議を開催し、警察・消防等の関係機関や見守り協定を締結している民間企業に出席してもらい、町の見守り制度や実際にあった事例、消費者被害の情報の共有等を実施。地域の見守り機能の強化を図った。 | 広報紙に見守りキーホルダー紹介記事を掲載すると、反響が大きく申請数が増加した。警察、消防と町から見守りキーホルダーの登録者情報を提供することで、身元の迅速な確認が可能となり、対象高齢者が地域で安心して暮らし続けていく上での一助となっている。見守りネットワーク会議を開催し、関係機関や見守り協定を締結している民間企業と町の見守り制度について共有し、見守り機能の強化を図ることができた。また、より多くの見守り協定締結事業所を増やしていくとよい。 | 順調 | 認知症高齢者の増加と単身及び高齢世帯の増加に伴い、地域で安心して暮らし続けることができるよう、引き続き町民の方々に見守りの取り組みを広く周知していく必要がある。広報や、訪問した際、各種講座等で周知していく。また、町民や民間事業者が地域の中で異変を察知して民生委員や町に知らせる緩やかな見守りが実施されるよう継続して働きかけていく必要がある。見守りネットワーク会議は今後も年1回開催し、事例の共有や啓発を行っていく。また、より多くの見守り協定締結事業所を増やしていくよう、広報や町ホームページにて募集を行っていく。 | 見守りキーホルダー登録者数 | 累計123人 | 累計78人 | 累計94人 | ①大きく達成(数値目標の場合は100%以上) | 順調 | 目標値に届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。 | 継続 | 本部の意見と同じ | 継続 | — | |
| 41 | ⑤空き家対策事業の推進 | くらし安全課 | 固定資産税の納税通知書にチラシを同封し、「埼玉空き家バンク」の周知に努めた。空き家の利活用について、関係各課で情報の共有と連携を図ったほか、商工会と意見交換を実施した。 | 「埼玉空き家バンク」を通じて1件の活用物件登録と2件の利用者登録があり、1件の物件が成約となった。関係課との情報共有及び意見交換を行い、空き家対策計画の策定に向けての協議を行った。また、商工会とも情報交換を行い、空き家の利活用について連携して取組を進めることとなった。 | 概ね順調 | 空き家バンクの運用や利活用について、担当を明確にし、空き家対策計画の策定を含めて関係各課で連携して取り組む。 | 空き家等対策計画の策定 | 策定 | 進捗報告 | — | ③未達成(数値目標の場合は70%未満) | 概ね順調 | 町内の空き家状況の把握や空き家バンクによる実績等から、施策として効果があった。引き続き取組を進め、関係各課と調整・連携し、早期の「空き家対策計画」の策定を目指すこと。 | 継続 | 本部の意見に加え、空き家調査の結果等を有効に活用し、是非成果に繋げてほしい。 | 継続 | 令和2年3月に空き家調査完了。令和3年度改訂でKPIを設定。 | |

基本目標 4 時代の変化に対応し、安心してらせる地域をつくる

| 項番 | 具体的施策 | 担当課 関係課 | 担当課による自己評価と今後の方針 | | | | KPI【重要業績評価指標】 | | | | 上里町まち・ひと・しごと創生本部 | | | 上里町地方創生推進審議会 | | 備考 【KPIの補足など】 | | |
|--------------------------|-------------------|----------------------------|--|--|--|--|---|------------------------|-----------|-----------|--|-----------------------------------|---|--|----------|------------------|---------------------------------|---|
| | | | 具体的な取組の内容 | 施策の進捗等 | 自己 評価 | 今後の考え方 | KPI | 最終目 標(R6) | R3 目標値 | R3 実績値 | 達成度 | 本部評 価 | 本部の意見 | 取組方 針 | 審議会の意見 | | 取組 方針 | |
| 基本的方向 (2) 生涯を通じた健康づくりの支援 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 42 | ア. 高齢者の元気づくりの支援 | 高齢者いきいき課 | <p>新型コロナウイルス感染症により、体操を自粛したため、予定を変更し取組みを実施した。</p> <p>広報、ホームページ、リーフレットを活用し介護予防に関する周知啓発。</p> <p>体操再開地区に保健師及び理学療法士が訪問し感染対策の確認及び体操の確認を実施。</p> <p>体操を自粛している地区に対して、地区ごとにサポーターが集まってもらい、聞き取り調査を行った。</p> | <p>新型コロナウイルス感染症のため体操を自粛している地区が多い中、18/28地区が体操を再開した。体操を再開している10地区に対し保健師と理学療法士が継続支援を行った。令和3年度中に新型コロナウイルス感染症による自粛後初めて体操を再開した地区は8地区あり、初回には保健師が再開支援として訪問し、感染症対策の留意点等の説明を行った。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響で、体操を再開の見込みが立っていない11地区に対して、地区の介護予防サポーターと保健師とで体操再開に向けて聞き取り調査と意見交換を行い6地区は体操を再開した。</p> | 概ね順調 | <p>・体操が安心安全に実施できるように支援を行う。</p> <p>・体操を再開した地区に継続支援を実施。</p> <p>・コロナ禍における、介護予防や地域のつながりを保つ取組みの検討及び展開</p> <p>・関係課と連携した高齢者の介護予防の展開</p> | <p>要介護等認定のうち軽度者の割合(事業対象者含む)</p> <p>こむぎっちちよっくら健康体操の参加者数</p> | 57.6% | 56.4% | 47.9% | <p>②ほぼ達成(数値目標の場合は70%以上100%未満)</p> <p>③未達成(数値目標の場合は70%未満)</p> | 概ね順調 | <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、こむぎっちちよっくら健康体操の参加者数は数値目標に届かなかったが、感染対策を行ったうえで一部の地域では事業再開を果たしており施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。</p> | 継続 | 本部の意見と同じ | 継続 | 「上里町高齢者福祉計画」「介護保険事業計画」より | |
| 43 | ①住民が主役の健康づくり活動の推進 | イ. 「こむぎっちちよっくら」等を活用した健康づくり | 生涯学習課 | <p>町内全域に毎戸配布されるスポーツ推進報で「こむぎっちちよっくら体操」の記事を取り上げ、周知を行った。</p> | <p>コロナ禍により実施数の増加には至らなかった。小学校運動会やスポーツ少年団主催事業、企業祭では継続的にこむぎっちちよっくら体操を実施している。</p> <p>また、希望者に対してDVDを配布するなども行っており、少しづつではあるが、周知できている。</p> | 概ね順調 | <p>少しづつではあるが、着実に周知されてきており、今後も積極的に周知していく。こむぎっちちよっくら体操やラジオ体操等の健康体操とともに、町民の健康増進・体力向上に繋げていく。</p> | 健康増進にかかわる体操を実施している事業所数 | 16事業所 | 10事業所 | 7事業所 | <p>②ほぼ達成(数値目標の場合は70%以上100%未満)</p> | 概ね順調 | <p>事業は順調に実施できており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。</p> | 継続 | 本部の意見と同じ | 継続 | — |
| 44 | ウ. 生涯スポーツの普及 | 生涯学習課 | <p>ハイキング等多くの事業が中止となった中で、オンラインでランニングやウォーキングの距離を全国の参加者と競う「オクトーバーランアンドウォーク」に参加。また、西武ライオンズと連携協定を結び、賀美小学校において野球の体験教室を行った。</p> | <p>新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、多くのイベントが中止を余儀なくされたが、新たな事業に着手することができた。</p> | 概ね順調 | <p>コロナ禍でも活動しやすいウォーキングや体操、また年齢や性別にかかわらず誰もが参加しやすいニュースポーツなどを軸にイベントや教室を計画していく。</p> | スポーツ教室の年間参加者数 | 120人 | 72人 | 72人 | <p>①大きく達成(数値目標の場合は100%以上)</p> | 概ね順調 | <p>目標値に届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。</p> | 継続 | 本部の意見と同じ | — | — | |
| 45 | エ. 健康づくりの場の整備 | まちづくり推進課 | <p>老朽化する遊具等について、定期点検を実施し、使用にあたり危険性が高い遊具を優先して撤去・改築を行った。</p> | <p>平成30年時点の危険遊具については全て撤去し、目標を達成した。</p> | 順調 | <p>公園施設長寿命化計画を策定し、今後も公園遊具等の定期点検、危険遊具の解消を目指す。改築・撤去・修繕等実施する。KPIを「公園施設長寿命化計画の策定」とする。</p> | 使用不可遊具数 | 0基 | 11基 | 0基 | <p>①大きく達成(数値目標の場合は100%以上)</p> | 順調 | <p>目標値に届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。</p> | 一部見直し | 本部の意見と同じ | 一部見直し | — | |
| 46 | ア. 健康意識向上への支援 | 健康保険課 | <p>各種検診や健康診査、健康教室などに参加することでポイントがたまると「令和3年度かみさと たまる健★幸マイレージ」を実施した。令和3年度は、町制50周年記念ポイントを設け、参加登録を促した。</p> | <p>スマートフォン登録を広報誌などで周知したところ、 たまる健★幸マイレージ事業登録者数は増加した。</p> | 概ね順調 | <p>健康意識の向上を促せるよう、周知や情報発信方法を工夫していきたい。なお、KPIについては上方修正を行う。</p> | 「たまる健★幸マイレージ」参加者数 | 800人 | 650人 | 1,182人 | <p>①大きく達成(数値目標の場合は100%以上)</p> | 概ね順調 | <p>目標値に届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。</p> | 一部見直し | 本部の意見と同じ | 一部見直し | — | |
| 47 | ②多世代にわたる健康づくりの推進 | イ. 特定検診・各種検診の推進 | 健康保険課 | <p>特定検診は、集団健診と個別健診を併用し、人数制限があるため集団健診を希望しながら受診できなかった方への個別健診勧奨を行った。</p> <p>がん検診は、胃・肺・大腸・子宮・乳がん検診の他、胃がんリスク検診、前立腺がん検診を実施。検診自己負担は無料となっている。年齢やがん種を絞った受診勧奨や要精検者への受診勧奨を実施。</p> <p>歯周疾患検診は、対象者に受診勧奨通知を発送した。また広報等を通じて受診勧奨を実施。令和3年度は、健★幸マイレージ事業で町制50周年記念ポイントを設けて、個別検(健)診の受診を促した。</p> | <p>特定検診の受診希望者は減っていないと思われるが、令和3年度も感染症対策のための集団健診定員減や受診控えが影響し、受診率が落ち込んだ。</p> <p>がん検診については、感染症対策を講じながら実施日数や定員を増加させたため受診者数も増加し、受診率も伸ばすことができた。</p> <p>健★幸マイレージ事業の記念ポイントの受診勧奨効果もあり「前立腺・大腸・子宮・乳がん検診」の個別検診受診者数が大きく増加した。</p> | 概ね順調 | <p>特定検診など集団健診の定員には限りがあるため、個別健診の受診勧奨を引き続き実施する。</p> <p>健★幸マイレージ事業とタイアップするなど、受診率向上のための効果的な周知方法や受診勧奨を実施する。</p> <p>なお、KPIについては上方修正を行う。</p> | 「たまる健★幸マイレージ」参加者数 | 800人 | 650人 | 1,182人 | <p>①大きく達成(数値目標の場合は100%以上)</p> | 順調 | <p>目標値に届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。</p> | 一部見直し | 本部の意見と同じ | 一部見直し | — |
| 48 | ③緊急医療体制の整備 | 健康保険課 | <p>救急医療について、住民が身近な場所で安心して医療を受けられるよう周辺地域の医療機関と連携を図り、医療環境の整備に努めた。</p> | <p>埼玉県地域保健医療計画における市町村の役割として、初期救急と第2次救急のうち病院群輪番制の充実に努めることとなっています。</p> <p>町は、初期救急から第3次救急における運営事業や地域医療確保の課題である看護師確保として本庄児玉看護専門学校に対し相応の負担を行い、医療環境の整備に努めました。</p> <p>また、郡市内の医療機関と連携を図り、検(健)診や予防接種などの体制整備にも努めました。</p> | 順調 | <p>住民が身近な場所で安心して医療を受けられるよう周辺地域の医療機関と連携を図り、医療環境の整備に努める。</p> | 緊急医療体制の整備状況 | 事業報告 | 事業報告 | 報告 | <p>②ほぼ達成(数値目標の場合は70%以上100%未満)</p> | 順調 | <p>施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。</p> | 継続 | 本部の意見と同じ | 継続 | 緊急医療体制の維持(進捗報告方法)体制整備にかかわる事業の報告 | |

基本目標 4 時代の変化に対応し、安心してらせる地域をつくる

| 項番 | 具体的施策 | 担当課 関係課 | 担当課による自己評価と今後の方針 | | | | KPI【重要業績評価指標】 | | | | 上里町まち・ひと・しごと創生本部 | | | 上里町地方創生推進審議会 | | 備考 【KPIの補足など】 | |
|---------------------------|----------------------------|------------|---|--|----------|--|---------------|------------------|------------|-----------------------|--|----------|--|--------------|----------|------------------|--|
| | | | 具体的な取組の内容 | 施策の進捗等 | 自己 評価 | 今後の考え方 | KPI | 最終目 標 (R6) | R3 目標値 | R3 実績値 | 達成度 | 本部評 価 | 本部の意見 | 取組方 針 | 審議会の意見 | | 取組 方針 |
| 基本的方向 (3) みんなで支えあう地域の絆づくり | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 49 | ①「地域力」強化への支援 | くらし安 全課 | 防災講習会を実施し、自主防災組織を中心とした地域住民に対し、ハザードマップの見方の説明と避難所開設体験を実施した。 | 地域に向向いての講習会を実施することで、住民に自助・共助の重要性を再認識する機会となっている。また、避難所開設体験を通じて、災害に対し「我がこと意識」を持ってもらう機運醸成を図った。 | 概ね順 調 | モデル地区を中心に防災訓練や防災講習会等を継続して実施することで、新たな自主防災組織の立ち上げを促進していく。 | 自主防災組織モデル地区数 | 6地区 | 5地区 | 5地区 | ①大きく達成 (数値目標の 場合は100% 以上) | 順調 | 目標値に届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。 | 継続 | 本部の意見と同じ | 継続 | — |
| 50 | ②地域でふれあう機会の充実 | 町民福祉 課 | 新型コロナウイルスの影響により活動休止されたサロンが多くあったが、地域のつながりを絶やさないため感染対策を徹底しながら実施した。 | 全18サロン中ほとんどの地域が休止していたが、その中で5サロンで活動を再開した。また、新規サロン開設に向けての問合せ相談が1件あった。 | やや不 調 | サロン活動再開に向けての支援策として、コロナ禍でも再開しているサロンの運営方法等を情報共有し、未再開サロンに働きかける。また、新規サロン開設のための広報活動等も実施する。 | 地域の集まりの場団体数 | 25団体 | 20団体 | 18団体 | ②ほぼ達成 (数値目標の 場合は70%以 上100%未 満) | 概ね順 調 | 新型コロナウイルス感染症の影響により、ほとんどの団体が活動休止を余儀なくされたが支援により活動が再開されたサロンもあるなど、施策として効果があった。引き続き、コロナ禍での再開支援や広報を実施し、事業を継続すること。 | 継続 | 本部の意見と同じ | 継続 | — |
| 51 | ③ふるさとを知り、地域を大切に する機運の醸成 | 生涯学習 課 | ふるさと学・行政をもっと知ろう講座事業の実施 | 令和3年度は15事業、参加者延べ人数459人 主な事業 《ふるさと学》 ・上里フットコンテスト 64作品 ・歴史教室 108人 200人 ・どんど焼きまつり 200人 《行政をもっと知ろう講座》 ・防災(くらし安全課)18人 ・消費生活講座(産業振興課)20人 ・防犯(本庄警察)16人 | 概ね順 調 | 郷土に対する誇りや郷土を大切に する機運(郷土愛)の醸成を図る。そ れと共に知識・技能の地域への還元 により幅広い世代に向けた豊かな社会 の構築や地域の絆づくりを推進す る。また、行政各所と連携を深め、 行政PRを行い、より有益な学習の機 会を提供する。 | ふるさと学受講者数 | 累計2,100 人 | 累計840 人 | 累計582人 (年459 人) | ③未達成(数 値目標の場 合は70%未 満) | 概ね順 調 | 数値目標の達成には至らなかったが、令和2年度実績(年123人)からの伸び率は好調であり施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。 | 継続 | 本部の意見と同じ | 継続 | 5年間の合計数2,100人(ふるさと学及び行政をもっと知ろう講座の受講者数) |
| 52 | ④社会的包摂を目指した文化 事業の推進 | 総合政策 課 | 上里町総合文化センター(ワープ上里)において、音楽・演劇・郷土芸能など鑑賞型のイベントや、和太鼓の体験教室などの参加型のイベントも開催し、伝統芸能の継承に努めている。また地域の方々の文化活動を発表して頂く場としてワープ上里フェスタなどを開催し地域文化活動の推進と地域のコミュニティづくりを推進している。 | 昨年度は実施されたイベント件数が4件だったが、3年度は企画していたイベント19件の内16件が開催された。それに伴い、昨年度と比べ利用者は倍に増加したが、コロナ前に設定した目標値には達していない。 | やや不 調 | 昨年度に続き、新型コロナウイルス感染症を考慮した新しい生活様式に適した形を検討・実施していく。 | 文化事業の参加者数 | 15,600人 | 15,500人 | 9,386人 | ③未達成(数 値目標の場 合は70%未 満) | 概ね順 調 | 新型コロナウイルス感染症の影響により、大規模なイベントについては入場制限をしたため数値目標の達成には至らなかった。しかしながら、事業については概ね実施ができたことから施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。 | 継続 | 本部の意見と同じ | 継続 | 社協事業(500人/年)+ワープ事業(約15,000人/年) |

基本目標4 時代の変化に対応し、安心して住める地域をつくる

| 項番 | 具体的施策 | 担当課 関係課 | 担当課による自己評価と今後の方針 | | | KPI【重要業績評価指標】 | | | | 上里町まち・ひと・しごと創生本部 | | | 上里町地方創生推進審議会 | | 備考 【KPIの補足など】 | | |
|--|-------------------------------|--------------------|---|--|----------|--|----------------|------------------|-----------|------------------|----------------------------|----------|---|----------|--|--------|---|
| | | | 具体的な取組の内容 | 施策の進捗等 | 自己 評価 | 今後の考え方 | KPI | 最終目 標 (R6) | R3 目標値 | R3 実績値 | 達成度 | 本部評 価 | 本部の意見 | 取組方 針 | | 審議会の意見 | 取組 方針 |
| 基本的方向 (4) 誰もが住みやすい都市基盤の整備 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 53 | ①最適な地域公共交通の整備 | 総合政策課 | 平成28年3月から、上里町コミュニティバス「こむぎっち号」の運行を開始し、令和3年度で運行開始から6年となる。運行開始以降、継続して利便性向上のための取組を実施している。上里町地域公共交通活性化協議会で令和2年3月に策定した「上里町地域公共交通網形成計画」にも基づき、事業実施をしている。 | 昨年度より、利用者が増加したものの、コロナ以前の利用者数には至っていない。しかし、令和3年3月に実施した支線ルートの変更以降、南部ルートについては、コロナ以前より利用者数が増加している。 | 概ね順調 | 引続き「こむぎっち号」の利用者数増加への取組を実施しつつ、計画に基づき次期導入形態の検討を実施していく。一般路線バスの運行支援についても継続的に実施していく。 | 町営公共交通年間利用者数 | 22,300人 | 18,700人 | 14,178人 | ②ほぼ達成(数値目標の場合は70%以上100%未満) | 概ね順調 | 利用状況は、未だコロナ禍以前に戻らないものの、令和2年度に比べ増加しており事業も順調に実施していることから施策として効果があった。今後も事業を継続し、交通協議会において、利用者増加策の検討を進めること。 | 継続 | 個別検討により出された意見(別紙「個別検討シート」)により、取り入れられるものについては検討し、更なる事業の発展に努めてほしい。 | 継続 | |
| 54 | ア. 神保原駅周辺地域整備 | まちづくり推進課 | 神保原駅北のまちづくりに向け、まちづくり協議会を設立し、神保原駅北まちづくり基本構想を令和4年3月に策定・公表した。 | まちづくり基本構想により、住民説明・意見交換会などにより、町民に対してまちづくりの方向性や考え方を示すことができた。 | 概ね順調 | 神保原駅北まちづくり計画や都市再生整備計画の策定等、具体的な整備手法を検討する。 | 駅北整備計画策定 | 報告 | 報告 | 報告(進捗率40%) | ②ほぼ達成(数値目標の場合は70%以上100%未満) | 概ね順調 | 施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。 | 継続 | 本部の意見と同じ | 継続 | 駅北の都市計画決定《進捗報告方法》計画策定の進捗報告 |
| 55 | ②快適な住環境の整備 | イ. 道路の幅員と雨水対策 | 《まちづくり推進課》 第5期埼玉県通学路整備計画に三田中通り線が位置付けられていることから、安全に歩ける環境の整備について検討した。 《上下水道課》 令和2年度に雨水対策の検討を行い、平成8年の雨水管渠基本設計ルートが採用案との結果となり関係各課と協議を行ったが、事業化には至っていない。 | 《まちづくり推進課》 今後、事業化の前の暫定整備として詳細設計など進めていく。三田中通り線については、事業化の前に周辺地区の雨水対策が必要となるため、雨水対策の進捗状況を踏まえ事業化の時期を検討する。 《上下水道課》 周辺地区の雨水対策についても検討を行いながら、関係各課と検討を行う。 | やや不調 | 《まちづくり推進課・道路整備課》 雨水対策の進捗状況を踏まえ、事業化の時期を検討する。 《上下水道課》 雨水全体計画に基づく事業化に向け関係各課と協議を行う。 | 雨水対策 | 報告 | 報告 | — | ③未達成(数値目標の場合は70%未満) | やや不調 | 雨水対策については、事業化に向けた関係各課との協議を進め報告すること。また、町内の歩道未整備箇所については、安全性の確保ができるよう検討を進め、進捗について報告すること。 | 継続 | 本部の意見と同じ | 継続 | 雨水対策計画の事業化《進捗報告方法》事業化の進捗方向 |
| 56 | ③将来を見据えた土地利用計画の検討 | まちづくり推進課 | 立地適正化計画を令和4年1月に策定・公表した。 | 計画の策定、公表により目標を達成した。 | 順調 | 本計画に基づき、コンパクトで持続可能な都市づくりを推進する。KPIを「立地適正化計画の推進(取組状況の報告)」とする。 | 立地適正化計画の策定 | 報告 | 報告 | 報告(進捗率100%) | ①大きく達成(数値目標の場合は100%以上) | 順調 | 目標値に届いており、施策として効果があった。新たに設定したKPIに基づき事業を推進すること。 | 一部見直し | 本部の意見と同じ | 一部見直し | 立地適正化計画の策定《進捗報告方法》計画策定の進捗報告 |
| 基本的方向 (5) ICTを活用した住民サービスの向上と安全安心のまちづくり | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 57 | ①ICTを活用した住民サービスの向上と安全安心のまちづくり | 総合政策課 | 令和2年度に策定した「上里町情報化推進基本計画」し、ICTによる住民サービスの向上と行政運営の効率化を目指す取組を行っている。 | 公式LINEアカウントの開設、上里町地図情報システムの公開、多言語翻訳サービスの導入、音声テキスト化サービスの導入、業務用ビジネスチャットツールの本格運用開始、ペーパーレス会議システムの本格運用開始を行った。スマホ教室を開催し延べ111人の参加があった。 | 概ね順調 | 国の「自治体デジタル・トランスフォーメーション(DX)推進計画」に掲げられた重点取組項目等を反映する形で情報化推進基本計画を改定し、「上里町DX推進計画」を策定する。 | デジタル活用支援講座参加者数 | 累計240人 | 累計180人 | 累計174人(年111人) | ①大きく達成(数値目標の場合は100%以上) | 概ね順調 | 目標値に届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。 | 継続 | 本部の意見と同じ | 継続 | スマホの使い方講座への参加者数 |
| 58 | イ. 安全安心でくらしやすい地域社会の構築 | 総合政策課・くらし安全課・生涯学習課 | 令和2年度に策定した「上里町情報化推進基本計画」し、すべての住民がICTの恩恵を享受する地域社会の構築を目指す取組を行っている。 | 公共施設10か所に公衆Wi-Fi環境を整備し運用を行った。また、公共施設の機能移転に伴い、公衆Wi-Fi環境の移転を実施した。 | 概ね順調 | 公衆Wi-Fi環境の安全性を確保し、安定的運用を図り、必要に応じて設置箇所拡大を検討する。 | 情報化推進基本計画の推進 | 報告 | 報告 | 進捗状況により報告 | ②ほぼ達成(数値目標の場合は70%以上100%未満) | 概ね順調 | 施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。 | 継続 | 本部の意見と同じ | 継続 | 令和2年度までの目標であり達成したため、令和3年度改訂によりKPIを更新⇒「計画の策定」を「計画の推進」に変更 |

第2期上里町まち・ひと・しごと創生総合戦略【令和3年度進捗状況に対する個別検討用シート】

《本シートの説明》

外部委員で構成する「上里町地方創生推進審議会」では、担当課の自己評価等に対し、内部委員会の評価を受けて意見を付しています。委員会をより有効的に活用するため、今回は2つの事業について選出し『個別検討』として検討・協議しました。審議会委員会による意見を事業担当課が検討することで各施策事業の更なる推進を目指します。

| | | | |
|--------|---|----------|-------|
| 基本目標 1 | 町の資源を活かして、仕事をつくり、産業を盛んにする | | |
| (3) | 農業の6次産業化による「かみさとブランド」の確立 | | |
| | 《基本的な方向》「農業振興プロジェクト」に定められた基本方針を踏まえ、上里町の特色を生かした農業の6次産業化を推進します。 | | |
| ① | 特色を生かした6次産業化の検討 | 担当課（関係課） | 産業振興課 |

| 具体的な取組施策 | |
|--|--|
| 梨やイチゴ、ニンジン等の上里町の特産品を使用した加工品のPR活動を様々なイベントを通して行っている。 | |

| 令和3年度取組内容と今後の方向性 | | K P I 《重要業績評価指標》 | |
|--|--|---------------------------|----------|
| イベント開催が制限される中であったが、このばなパーク付近観光農園等の活用による地元野菜を使った加工品についてJA、本庄農林と検討を行う。県の6次産業化事業の活用など、農林振興センターと連携し、新商品の開発について検討を行う。 | | ふるさと納税返礼品の内、6次産業による商品数の割合 | |
| 実績から見た課題 | | 令和3年度実績値 | 令和6年度目標値 |
| PR活動については感染状況を視野に入れ適切に実施していくこととしているが、令和4年度においては上里サービスエリア下り線側において農産品や加工品のPRを実施している。ふるさと納税の返礼品への活用についても事業者と調整していく。新たな加工品の開発については、農林業と製造業と小売業の統合的かつ一体的な推進を図るため、それぞれの段階をつなげる仕掛けが重要である。 | | 27.50% | 10% |

審議会委員による意見

- ・ まずは町民に対し、どこで手に入る商品なのか詳しくPRした方が良い。
- ・ 加工品を試作する作業スペースの確保が必要である。
- ・ 上里町は小麦の印象があるが、取組の中に「小麦」とい言葉が無いので、何かしら入れた方が良いのではないか。
- ・ 本来の目的は商品の開発ではなく、新しい商品を作って売ることであるからPR活動についても「今後の活動」に記載をすべき。
- ・ K P I は町外向けの指標だが、P R は町内向けのものであるため、P R について「誰に」「何を」P R するのか、もう少し詳しく記載した方が良い。地元向けと町外に対しどのようにP R するのか両方を記載する必要がある。
- ・ K P I が商品数となっているが、本来は売上金額とするべき。
- ・ 販売場所が、今後増えるようであれば、その記載も行うと良い。
- ・ 実績から見た課題で、P R 活動が上里S A 下り線とあるが、東京方面へ向かう上り線についても積極的に行うべき。
- ・ 個人だけでなく、企業に対しても積極的にP R し取り組むべき。
- ・ 実績から見た課題に上里S A 下り線で農産品や加工品のP R を実施しているとあるが、S A 内の商品のP R をしているのか、S A から下りた農協直売所の商品をP R しているのか分かるようにした方が良い。

| | | | |
|--------|---|----------|-------|
| 基本目標 4 | 時代の変化に対応し、安心してらせる地域をつくる | | |
| (4) | 誰もが住みやすい都市基盤の整備 | | |
| | 《基本的な方向》 少子高齢化の進展による交通弱者の増加が予想されることから、町民の生活の足を確保し、自立した生活を支援する必要があります。このため、現行の地域公共交通をより町の現状に合った形になるよう改善に努め、多くの人々が満足できる効率的な地域公共交通の確立を目指します。 | | |
| ① | 最適な地域公共交通の整備 | 担当課（関係課） | 総合政策課 |

| 具体的な取組施策 | |
|---|--|
| 平成28年3月から、上里町コミュニティバス「こむぎっちょ号」の運行を開始し、令和3年度で運行開始から6年となる。運行開始以降、継続して利便性向上のための取組を実施している。 上里町地域公共交通活性化協議会で令和2年3月に策定した「上里町地域交通網形成計画」にも基づき、事業実施をしている。 | |

| 令和3年度取組内容と今後の方向性 | | K P I 《重要業績評価指標》 | |
|--|--|------------------|----------|
| 昨年度より、利用者が増加したものの、コロナ以前の利用者数には至っていない。しかし、令和3年3月に実施した支線ルートのルート再編以降、南部ルートについては、コロナ以前より利用者数が増加している。 引き続き「こむぎっちょ号」の利用者数増加への取組を実施しつつ、計画に基づき次期導入形態の検討を実施していく。一般路線バスの運行支援についても継続的に実施していく。 | | 町営公共交通年間利用者数 | |
| 実績から見た課題 | | 令和3年度実績値 | 令和6年度目標値 |
| 令和3年3月に支線ルートのルート再編を実施し、1便あたりの所要時間を短くし循環型にすることで、速達性の確保と便数の増加をしたが、中央ルートと比較すると、支線（北部・南部）ルートの利用者数は少ない。アンケート調査からの主な課題は、便数の増加、隔日運行の解消である。また、令和4年9月に高齢者無料バスの対象者年齢を拡大したことにより、無料バスの申請者は増加したが、新規利用者の獲得に至っていない。 | | 14,178人 | 22,300人 |

審議会委員による意見

- ・ バス停でない場所で乗り降りができるとう良い。
- ・ 利用者を増やすためには、20分から30分に1本程度の運行本数とするなど利便性を上げる。
- ・ 地元企業とのタイアップなど、企業にも協力をしてもらった方が良い。
- ・ タクシーデマンドの導入を検討した方が良い。
- ・ 本庄早稲田駅や本庄駅など、他自治体への乗り入れにより利用者が増加すると思う。
- ・ 高齢者に分かりやすいようなルートや時刻表とすべき。乗り換えしないと帰れないのは不便だし判り辛い。
- ・ 隣接自治体との境に結節ポイントを設けて、他自治体の交通サービスとの乗り継ぎができるようにすると良い。
- ・ 一部民間委託するなど、様々な角度からの検討が必要である。
- ・ 利便性を求める中での矛盾点（車両を小さくするべきとの意見等）やアンケートによる意見を整理して検討を進めるべき。
- ・ スタンプラリーなどを実施して、数多く乗った人に得点があるイベントを行う。
- ・ 潜在的な利用者を増やしていくため、単に利便性を高めるという事ではなく、利用者が何を目的に利用するのか分析する必要がある。
- ・ 町内には路線バスがある中、どこをこむぎっちょ号が担っていくのかという視点が重要である。
- ・ 高齢者の利用を考えると、ドアtoドアが適切である。
- ・ マイカー文化が定着している地域性であるため、バスに乗ると意識付けが必要である。